

安芸高田市学校規模適正化委員会学校視察 (平成21年度)

- 7月13日 川根小学校 (5・6年生 算数) P1
- 7月15日 川根小学校 (3・4年生 国語) P2
- 7月13日 高宮中学校 (1年生 数学) P3
- 7月15日 高宮中学校 (1年生 英語) P4



13日川根小



13日高宮中

視察参加委員
7月13日 6名
7月15日 6名



平成21年7月13日 川根小学校 5・6年生授業参観 第4時限目科目 算数

I <<学習指導内容>> 概要 教員1名 計1名
5年生(3名) 授業内容:三・四角形の角

① ふれる・つかむの学習	
・復習	(前回授業の復習)
・確認	(今回授業の内容確認)
・つかむ	(図形を描かせる)
② さぐるの学習	
・聞く	(児童の考えを聞く)
・指導	(補線を入れヒントを与える)
③ ふかめるの学習	
・発表	(相互に生徒発表)
・実践	(例題を与え練習させる)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)

6年生(4名) 授業内容:計算の見積もり

① ふれる・つかむの学習	
・確認	(今回授業の内容確認)
	ゲーム形式で内容説明
② さぐるの学習	
・実践	(子どもたちだけで実践する)
	(先に答えを提示し考えさせる)
③ ふかめるの学習	
・発表	(児童毎に答えを発表)
・確かめ	(電卓を使い答えを全員で検証)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)

II <<進捗>>

- 5年生・6年生ともに、ふかめる学習まで到着出来たが、指導要領での応用項目(5年=五角形・六角形・6年生=ノートを使った振り返り)などはできていなかった。
- 短時間ではあるが(5分程度)リーダー学習になった学年で児童の行動が全く止まった。(課題が整理できない状況になったとき5年生2回・6年生1回)

III <<学校長と委員との意見交換>>

① 全般説明

- 男女別人数は5年生で男子1・女子2人・6年生で女子4人であり、クラスの中で男子は1人で男女の偏りがある。
- 読み書きを大切にする授業や学年が低い場合、子供の授業方法への慣れが必要で定着できるまでには時間がかかる。
- 複式校に異動になった先生の多くは初めての経験の場合が多く、授業が少ない水曜日や夏休みに研修や独自に進め方の研究をしている。(昨年度は複式の経験を持つ先生を招き直接指導を仰いだ 5月=1,2年生 6月=3,4年生を対象)
- 複式の場合学年の違う兄弟でも場合によっては同じクラスになる。
- 先生の苦勞として、授業以外にも指導案や事前準備が2学年分の2通りが必要である。
- 子供の通学は6kmを超える児童もいるが、地域に見守隊があり安全面には寄与いただいている。ただ雨の場合などは、保護者が実質送り迎えを行っている。また距離と併せ坂も急で児童には負担も大きい。

② よかった点または意見

- 児童の数が少ないことにより、また同じクラスでも上級学年の児童は手本となることから、上の学年が下の学年を指導する力は育まれる。(給食・掃除当番など学年を超えた編成)
- 自然に恵まれた環境(川・鳥・セミの音)で勉強できる。

③ 課題な点または意見

- 複式学級ではどうしても授業の進捗は遅れる傾向にある。通常授業で不足する時間は補習授業により調整している。
- 先生1人当たりの負担も大きく、また他校より多くの授業を担当しなければならないことは決して望ましいことではない。(今回授業参観を受けていただいた先生は週30時間授業がある中27・28時間を受け持っている、教材選び・指導案作成の時間不足)
- 学校としては一人学びの時間が多くなり、進学し大きな集団に入った場合小学校で学んだ力が十分に発揮できる心配である。(5年生の野外活動・6年生での修学旅行など他校と連携はしている。)

平成21年7月15日 川根小学校 3・4年生授業参観 第4時限目科目 国語

I 《学習指導内容》 概要 教員1名+学習補助員1名 計2名

3年生(2名) 授業内容:詳しくする言葉

① ふれる・つかむの学習	
・復習	(前回授業の復習)
・確認	(今回授業の内容確認)
② さぐるの学習	
・実践	(簡単なゲーム形式)
③ ふかめるの学習	
・発表	(相互に生徒発表)
・考える	(発表を基に詳しく説明)
・練習	(実践させる・書かせる)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)
・まとめ	(家庭学習などの指示)

4年生(7名) 授業内容:伝言は間違えずに

① ふれる・つかむの学習	
・学習準備	(声出しの練習)
・学習意欲づくり	(児童の経験を出しあう)
・確認	(今回授業の内容確認)
② さぐるの学習	
・課題の提供	(良い例・悪い例のCDを聴く)
・考える	(違いを考えさせる)
・実践	(自分でメモを実践する)
③ ふかめるの学習	
・発表	(児童が工夫したことを発表)
・考える	(発表をもとにより良い方法)
④ まとめの学習	
・振り返り	(理解できたか確認する)
・まとめ	(家庭学習などの指示)

II 《進捗》

- ・ 3年生・4年生ともに、ふかめる学習までで、まとめ学習(振り返り・まとめ)まで到着できなかった。
- ・ 授業開始10分後からの参観となったが、4年生でリーダー学習に進んでも先生の移動ができず結果授業が4年生に偏った展開となり進行が遅れた。(3年生中心の指導9分・4年生中心の指導26分)

III 《学校長と委員との意見交換》

① 全般説明

- クラスの雰囲気も、少人数であるため、静かな場合、やや賑やかな場合などがすぐに変化しやすい傾向もある。
- 複式学級ならではの教材選びも重要である。家族的な雰囲気となるため、子どもが興味を持ちやすい教材を工夫することが必要である。
- 川根小学校は来年の地元保育所の年長組が7人であり、うまくすれば、来年単式学級の可能性もある。
- 平成23年度の新指導要領実施に伴い、指導内容が増加し、既に算数ではTT(チームティーチング)を実施しているが、理科や社会なども何らかの対策を取らざるを得ないかも知れない。
- 美土里小学校などと比較すると、大勢の中で緊張することが少ないことが気になりである。自由勉強をする力は川根小学校の方が良いかもしれない。
- 家族的な雰囲気から公共的な場になじめる児童にしていくことも必要である。
- 性別の片寄りも心配である。どうしても女子だけで固まる傾向も否定できない。
- 特定の集団が形成され、排除される児童がでないよう、常に注意している。

② よかった点または意見

- 中学校に上がる前に、町内3小学校での交流会、合宿活動を通じて、大きな集団での教育活動の機会をできる限りつくっている。
- 学校行事の場面で、縦割り集団や全体活動を積極的に取り入れ、目標と反省を全員の前で発表させるなど、工夫している。川根小学校では、地域とのふれあい、高齢者との手紙のやりとりなど地域の交流機会が多いのが特徴である。

③ 課題な点または意見

- 複式学級の場合、支援が必要な児童がいたり、学習リーダーが育たない場合には学級運営が相当困難になる。
- 学習補助員(教員免許を持たない)を配置しているが、教師が一方の学年にかかりきりとなり、他学年に十分な個別指導ができない場面がある。学習リーダーによる司会、牽引や一人学びの時間を十分に活用することが課題である。
- 5・6年生クラスは、家族のような感じで緊張感がない。3・4年生クラスでは人数が少ない3年生の自習学習時間が長い。1人学びもヒントカードなどを利用し工夫した学習計画を立案しているが充分機能していないこともあった。小学校の場合、3年から4年に移行する段階で指導内容がレベルアップする傾向があり、適切な対応が必要である。
- 複式学級の場合、転校生がうまくなじめるかの問題がある。特に、学習進度が異なる場合も考えられ、指導内容の重複や漏れなどに充分対応できるか心配がある。

平成21年7月13日 高宮中学校 第1学年授業参観 第2時限目科目 数学

I 《学習指導内容》 概要:教員2名 計2名 授業内容: 1次方程式

① 学習課題の設定	
・学習準備	(小学校の内容を解いてみる)
② 自力追及・表現の設定	
・当該授業の目標確認	(先生による符合の意味の説明)
・実践	(日常生活であるような話で問題を出す)
	(班で話し合い問題を解く)
・発表する	(班わけごとに式と答えを代表が発表)
③ まとめ・自己評価	
・まとめ	(今回授業の意味の説明と次回学習の指示)

II 《進捗》

- ①は10分程度 ②は25分程度で進み班学習では進みの早い子が遅い子を指導する姿があった、発表では相当の時間的余裕が生まれ先生から生徒への回答までの道筋についての質問も生まれた。③のまとめでも1次方程式の意味までの説明は出来た。
- 授業は2名の先生で進め、生徒間を移動することで直接指導する場面も多く生徒からの質問も多い授業であった。(但し、班学習では活発な子の私語も多少あった。)

III 《学校長と委員との意見交換》

① 全般説明

- 班わけ授業では机を合わせることで教室のスペースは不足していなかったが、通常の生徒・教師の対面授業では中学1年生にもかかわらず多少の窮屈感があった。
- TT (チームティーチング) を実施しているがサポートの先生の本科は家庭科である。(教員免許は共に有している)
- 現在1年生は1クラス39人、2年生1クラス27人、3年生2クラス44人で全校生徒は110人の生徒が通っている。また特色ある学校を目指す中、1人の教員の加配を受け8人の教員がいる。
- 学校側から1つのクラスの適正な規模については検証したこともなく、また授業の内容によって教えやすい生徒の人数は変わってくるが一般的には20人から30人の学級生徒数が教えやすいといわれている。

② よかった点または意見

- 3つの小学校から生徒が集まっており、また出身校の規模も大きく違いがあるが、今年度の1年生では直ぐに打ち解けており、中一ギャップについては感じることはない。
- 通学も現在は備北交通が学校の時間帯に併せ運行いただいている、また川根からも独自にスクールバスの対応がある。(但し時間帯の制限はある)

③ 課題な点または意見

- 授業はTTという形態で実施しているが、サポートの教員は専門外のため授業の内容を直接指導しきれいなように見えた。

平成21年7月15日 高宮中学校 第1学年授業参観 第2時限目科目 英語

I <<学習指導内容>> 概要:教員2名+ALT 計3名 授業内容: 朝食の会話

① 学習課題の設定	
・あいさつ	(学習雰囲気づくり)
・学習準備	(前回授業の復習)
② 自力追及・表現の設定	
・当該授業の目標確認	(簡単な例を提示する)
・教科書内容の確認	(実践を含めた練習)
・ペア練習	(基本を生徒間で反復)
・基本文の確認	(ワークと音読)
③ まとめ・自己評価	
・まとめ	(家庭学習などの指示)

II <<進捗>>

- ①は10分程度 ②は20分程度で進み③のまとめまでに相当の時間があり生徒発表など実践を繰り返し、余裕のある授業展開であった。
- 授業は加配措置もあり2人の先生とALT1名計3人で進め、生徒間を移動することで直接指導する場面も多く生徒からの質問も多い授業であった。

III <<学校長と委員との意見交換>>

① 全般説明

○ 各専門教科の教師間で学校内又は市内学校間の意思疎通は取れている。(教育推進会でも、必要に応じて実施している。) 地域や規模による教師の力量の差はないと考えている。

○ TT (チームティーチング) は英語と数学で実施している。英語は年間105時間あり、うち90時間をTT又は少人数クラス(習熟度別クラス)で実施している。英語は2人の教師が教員免許を持っているため、独立した少人数クラスでの授業が可能となっている。

○ 生徒からみれば、ほとんどは2学級(習熟度別)に分かれて授業が行われているようなもので、基礎基本など定着してきている状況である。生徒も受け入れられていると感じている。

○ ALT (外国語指導助手) は、毎週水、金に入っている。その他の曜日は基本的には高宮町内の小学校に入っている。安芸高田市内には計5人のALTが在籍している。

○ 学校としてはどのくらいの人数が適切かを話したことはない。学級運営を行う上での人数を検討していくべきだとは思いますが、法で定められた編制を受け入れて最適な授業計画をいかに行うかに関心があり、教師側から規模の議論はなかなか難しい。

② よかった点または意見

○ 美土里小学校は26人の授業で、適当な人数と感じていた。今日の40人規模では更に活気が出ていると感じた。

○ 最近の英語の授業は、コミュニケーションや使える英語を強く意識したものになってきている。この意味でもTT、習熟度別、ALTの配置などは効果を上げていると考える。また、この3人体制が事前の宿題のチェックや個別の指導などの点でも評価できるものである

③ 課題な点または意見

○ なお、数学の授業もTTで実施しているが、現状では数学の教員免許を持たない教師が2人目としてクラスに配置されているため具体的な指導が難しい。